**2021年度 第1回（新体制1回）メカニカルファスニング技術小委員会議事録（案）**

構造WG-1-1

**日　時：** 2021年5月31日（月）15:00～17:00

**場　所：**  zoomによるオンライン会議

**出席者：** （敬称略）（欠席者は下線）

委員長： 　多賀謙蔵（神戸大学）

委　員： 桑原進（大阪大学）、山口隆司（大阪市立大学）、宇野暢芳（GBRC）、伊山潤（東京大学）

事務局：　横手武聡（JSSC）

**議事次第：**

1. 前回議事録の確認
2. 委員会構成の確認
3. 2020年度第1回 技術・標準委員会報告
4. 今後の予定

**配布資料**

小委員会2021-1-0　議事次第

小委員会2021-1-1　2020年度第1回メカニカルファスニング小委員会議事録

小委員会2021-1-2　001小委員会名簿、002 構造WG名簿、003接合要素WG名簿

小委員会2021-1-3　2020年度 第1回 技術・標準委員会 議事録(案)

小委員会2021-1-4　技術・標準委員会 会議資料(1)

**議事要旨**

多賀委員長の司会により、以下のことを確認した。

1. 前回議事録の確認

　2020年度の活動成果として、下記の事項について確認した。

　・構造WGの成果報告（テクニカルレポート原稿の確認）

　・メカニカルファスニング技術小委員会の2021年度以降の活動について

　・OS法実用化に向けての「新耐力点法（OS 法）による高力ボルト締付け施工に係わるJSS規格作成

小委員会」（当小委員会から独立）の活動状況

　・次回の小委員会の開催時期について

1. 委員会構成の確認

　コロナ禍の影響で、１年間活動休止となったが、構造WGの主査を山口先生、接合要素WGの主査を伊山先生とする新体制にて、研究活動を開始する。

各WGの課題は、以下を素案として、WGにて詰めていく。

　・構造WG：メカニカルファスニングの普及に向けての諸検討

　・接合要素WG：拡大孔・スロット孔，中ボルトの締付け施工，超高強度ボルト遅れ破壊など，MF接合部に関する検討

1. 2020年度第1回 技術・標準委員会報告

　多賀委員長より、2021年3月5日に行われた技術・標準委員会について、メカニカルファスニング分野に関連した委員会について、活動報告の紹介があった。

・メカニカルファスニング技術小委員会については、3月に発刊されたテクニカルレポート№124「メカニカルファスニングで形成する柱梁接合部の普及に向けて」の内容紹介が行われた。

・OS法（新耐力点法）に係わるJSS規格作成小委員会 については、昨年10月に第１回小委員会が開催され、指針の作成に着手されたことが報告された。

・ボルト接合による橋梁の補修・補強法に係る研究小委員会については、山口委員より、目次の紹介がなされ、第１編(共通編)と第２編(検査・試験編)から構成され、発刊は今年度上期の予定であることが報告された。

・超高力ボルトの施工・維持管理に関するガイドライン検討小委員会が設置され、１年間の予定で活動が開始されたことが紹介された。

４．その他意見など

　今後の活動について、委員から以下の意見があった。

・接合要素WGで扱ってきた超々高力ボルトについては、NIMS様を中心に10年以上検討していただいているが、製造は難解であり、工業製品への工程化はなかなか見えない。14Tクラスも万全ではない中で、18Tとか20Tクラスを製品化できるかどうか、一度、冷静に考えてみることが必要と思われる。

・検討課題に、ボルトだけではなく、ビスなどの軽微な接合法も対象に加えていったらどうか。

・構造WGについては、昨年度までは建築を主な対象としてきたが、土木分野にも検討対象を広げることを意識してはどうか。

５．次回開催など

　6月～8月で、構造WG・接合要素WGの初回のWGを行っていただき、次回の小委員会の開催は、遅くとも9月～10月で予定することとなった。

以上